

## 1. 活動概要

「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、平成27年度末に廃止された「地域医療システム学寄附講座」の後継として平成28年4月1日に設置されました。当寄附講座のこれまでの実績と本県における医師の地域偏在の解消、さらなる地域医療の充実のために、地域医療を担う総合診療医等を養成する当寄附講座は、その後平成31年4月から3年間の延長、さらに令和4年度から3年間さらに延長されました。なお、さらに3年間延長することとされました。

同講座は、超高齢社会における様々な医療ニーズに応えられるよう、これまでの医師循環システムに関する調査研究や地域医療実習教育に関する調査研究等の成果を踏まえ、「医学生や若手医師への卒前からの一貫した地域医療教育」「総合診療医の育成」「地域医療実践教育拠点の運営」など、地域医療を志す医師の養成を目指して、より実践的な取り組みを進めています。

具体的には、熊本大学医学部医学科学生(熊本県医師修学資金貸与学生を含む。)や若手医師に対して、卒前からの一貫した地域医療教育を通じた地域医療マインドの涵養に取り組んでいます。また、今後、地域医療への貢献が期待される総合診療専門医の育成において、熊本県内の公的病院等が連携するに当たり、同講座が中心的な役割を果たすとともに、教育拠点運営支援や地域医療機関における診療支援を促進することとしています。

## 【主な内容】

- I. 地域医療支援(診療支援)
- II. 調査・研究
- III. 教育活動
  - ・ 卒前教育(カリキュラム外教育)
  - ・ 卒前教育(カリキュラム内教育)
  - ・ 卒後教育
    - ↳ 初期臨床研修
    - ↳ 専門研修
- IV. 専門医資格修得後のキャリア支援
- V. 講演会

## 2. 年間活動実績

月	日	行事
4	27	レジデントデイ
5	11	令和4年度合同Webカンファレンス①
	12	TMEC
	13	クリクラ第11ターム 振り返り会
6	2	TMEC
	3	クリクラ第12ターム 振り返り会
	8	令和4年度合同Webカンファレンス②
	22	第9回 熊本大学総合診療セミナー
	23	TMEC
7	24	クリクラ第13ターム 振り返り会
	6	レジデントデイ
	13	令和4年度合同Webカンファレンス③
9	14	TMEC
	15	クリクラ第1ターム 振り返り会
	8	TMEC
	9	クリクラ第2ターム 振り返り会
	13	第10回 熊本大学総合診療セミナー
	14	令和4年度合同Webカンファレンス④
10	29	TMEC
	30	クリクラ第3ターム 振り返り会
	20	TMEC
11	21	クリクラ第4ターム 振り返り会
	9	令和4年度合同Webカンファレンス⑤
	10	TMEC
	11	クリクラ第5ターム 振り返り会
	16	レジデントデイ
12	22	第11回 熊本大学総合診療セミナー
	1	TMEC
	2	クリクラ第6ターム 振り返り会
	22	TMEC
1	23	クリクラ第7ターム 振り返り会
	11	令和4年度合同Webカンファレンス⑥
	18	レジデントデイ
2	26	TMEC
	27	クリクラ第8ターム 振り返り会
3	8	令和4年度合同Webカンファレンス⑦
	16	TMEC
3	17	クリクラ第9ターム 振り返り会
	9	TMEC
	10	クリクラ第10ターム 振り返り会
	29	第12回 熊本大学総合診療セミナー

### 3. 活動報告

#### I 地域医療支援(診療支援)

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、専門診療科以外の受診を目的とした初診患者を中心に診療を行いました。また、大学病院の救急外来診療等も担当しました。

玉名教育拠点においては、「総合診療科」の外来及び病棟診療を行いました。また、同院の救急診療にも携わりました。その他の熊本県内の医師が不足している病院に対し、県からの要請に基づき、診療支援活動を行いました。

#### ◆ 大学病院 総合診療外来

月	火	水	木	金
松田	松井	高柳	佐土原	北村

#### ◆ 学外診療支援

医師	支援内容及び支援先医療機関
松井	2022. 4～2023. 3 くまもと県北病院 (週1回)
荒木	2022. 10～2023. 3 荒尾市民病院 (週1回)
	2022. 10～2023. 3 上天草総合病院 (週1回)
佐土原	2022. 4～2023. 3 小国公立病院 (週1回)
	2022. 4～2023. 3 阿蘇医療センター (週1回)
北村	2022. 4～2023. 3 山都町包括医療センターそよう病院 (週1回)
	2022. 4～2023. 3 くまもと県北病院 (週1回)
松田	2022. 4～2023. 3 上天草総合病院 (週1回)
	2022. 4～2023. 3 小国公立病院 (週1回 月2回当直)

#### II 調査・研究

#### ◆ 地域医療実習教育に関する調査研究

修学資金貸与による義務年限を有する学生を対象に、将来のキャリア支援と定着の要因の解析と、例年行ってきた地域医療特別実習の効果を見るために実習の前後で量的・質的なアンケートを実施しており、新型コロナウイルス感染症パンデミック前の令和元年(2019年)データ解析を行い、国内学会での発表を終えました。なお、令和5年(2023年)10月には、世界家庭医療機構(WONCA)での発表を予定しています。

また、その後はポストコロナ時代の地域医療特別実習のあり方についても実施の目処が立ち次第、調査に移る予定にしております。

#### ◆ 総合診療専門医普及に関する調査研究

当講座では、日本専門医機構の基本領域専門医である総合診療専門医の育成を担っています。医師の働き方改革の解決策の一つのモデルを米国のホスピタリスト(病院総合医)に求め、日米の医療制度の違いや労働の実態を比較しました。平成30年(2018年)から継続した課題で、米国のホスピタリスト(病院総合医)にインタビューしたデータを質的に解析したものを国内学会発表し、令和5年(2023年)5月に米国総合診療医学会発表予定であり、現在、論文化の準備作業を進めています。

総合診療専門医のアカデミックな活動の支援として、令和元年(2019年)に兵庫医科大学臨床疫学共催でワークショップを行いました。その活動の一環で、令和3年(2021年)には、研究倫理ワークショップを開催しました。いずれも、AMED(日本医療研究開発機構)の臨床研究トレーニングに組み入れられた能動的な研究倫理学習プログラムに準拠しており、令和4年度(2022年度)も同研究班での開発事業の協力者として活動しており、5年度も引き続き活動する予定です。

#### ◆ 医療機関の勤務環境に関する調査研究

研修医が地域医療研修において困難を克己して安全な研修生活を送るためのキャリア支援につなげるために、研修医のレジリエンスと地域医療研修との関係について2019年から2021年までアンケート調査による縦断研究を行いました。会及び科学研究費助成事業の報告書として報告済みで、現在論文文化を進めています。

#### ◆ 教育拠点に関する調査研究

教育拠点に関する調査については、総合診療科、地域医療支援機構、各教育拠点と連携して、次のような取り組みを行っています。

くまもと県北教育拠点については、総合診療科専攻医の教育、初期臨床研修、地域医療・総合診療に係る学生実習の拠点として活動。現在1人の総合診療科の専攻医が勤務しており、くまもと県北病院との連携により本人のキャリア形成に向けた取り組みについて課題等の把握を行いました。

また、令和3年(2020年)4月から天草市立河浦病院に教育拠点を設置し、へき地の中心的な医療機関における地域で必要とされる医師の育成・教育機能向上を図る観点から調査を行っています。令和3年(2020年)10月から総合診療科の専攻医が配属になっており、今年度も引き続き当講座の教員の指導の下、診療を行い、課題等についての検証が進められました。

### III 教育活動

#### ◆ 卒前教育(カリキュラム外教育)

##### ① 修学資金貸与学生の面談実施

熊本県修学資金貸与学生の今後の円滑なキャリア形成を図ることを目的に、地域医療支援機構と連携して熊本県医師修学資金貸与学生32名の面談を実施しました。今年度も新型コロナウイルス感染状況を踏まえて、対面及びリモートによる実施となりました。

将来の希望の聞き取りや学生生活の状況等を聞き取り、生活面、学習面等個人ごとに必要な助言をしました。また、6年生に対しては、将来のキャリアプラン等を聞き取り、進路について義務の履行とキャリア形成の両立に関して個別具体的なアドバイスを行いました。そのほか、熊本県医師修学資金貸与制度の周知、キャリア形成プログラムの内容の周知等を図り、将来地域医療に携わることに対する意識が深まるよう努めました。

##### ② 地域医療ゼミ

地域枠学生等(熊本県医師修学資金貸与学生)を主な対象に実施している地域医療ゼミは、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、主にリモートでの開催としました。「シネメディケーション」をはじめとする学生企画のゼミ、講演等、合計11回の活動を行いました。

この中で、地域医療支援センター企画の「制度とキャリア」においては、新専門医制度にかかる最近の動きについて当センター教員からの説明を受けるとともに、特に出産・子育てにかかる世代の医師の増加、女性医師・学生の増加等により近年関心が高まっている「出産・育児にかかる休暇・休業と義務の履行」等について県医療政策課からの説明を受けました。

また、今年度新たな企画として、9月、10月のゼミにおいて、修学資金貸与医師・学生、自治医科大学生・卒業医師が義務履行期間中必ず勤務する必要がある第2グループの知事指定病院及び第3グループの病院

等のうち勤務期間の換算が第2グループ扱いとなる診療所の概要について、リモートでの説明会を実施しました。各病院に勤務する若手の医師から普段の医療活動の様子や専門医資格の取得等キャリア形成の実情等についての説明を受け、聴講した医師や学生にとって将来の勤務のイメージづくりに一定の役割を果たしました。説明会の様子は地域医療支援機構のホームページ上に動画を掲載しており、修学資金貸与学生、自治医科大生を中心に視聴されています。

なお、第1回ゼミは、新入生の歓迎会を兼ねて対面で実施し、自治医大生、県外卒の修学資金貸与学生が参加できるようリモートでも対応できるハイブリット方式で行いました。また、第11回ゼミでは、6年生の卒業を祝って、追出しゼミとして対面で実施しました。

### ③ 夏季地域医療特別実習

夏季地域医療特別実習は、熊本県医師修学資金を貸与されている学生及び熊本県出身自治医科大生を対象として毎年県内各地で開催しているところです。当実習は、将来地域医療に従事することが予定されている学生が地域の行政関係者及び医療・福祉関係者等に対する聞き取りを通して地域の問題点を探り出すとともに、自ら「見て」「聞いて」「体験」することで、地域を知り、地域との関係性を構築するとともに、地域医療に取り組む意欲を醸成することを目的としています。

今年度は、令和元年8月以来3年ぶりに実施することを目指し、天草上島地域(上天草市、天草市御所浦地域)を対象地域に8月上旬に実施することとして準備を進めてきました。特に新型コロナ感染対策については、①参加者全員にPCR検査を実施し、陰性者のみに参加を認める。②令和4年7月4日付け病院長発出の行動自粛通知を踏まえて、ア)実習中は食事等の場合を除きマスク着用を義務付け、イ)手洗い・手指の消毒こまめに行うこと、建物に入る際は必ず備え付けのアルコール消毒で手指を丁寧に消毒する、ウ)密閉、密集、近距離会話(「3密環境」)を避け、参加者同士つねに一定程度の距離を設けること、特に、i:移動中のバスの車内では、一人分の椅子を必ず開けて座る、ii:食事は黙食、iii:実習期間中大声を出さない、を徹底することとして、参加者にも周知してきました。しかしながら、必要な準備もほぼ整いつつある中、新型コロナ第7波の感染拡大の影響により中止の判断となりました。

## ◆ 卒前教育(カリキュラム内教育)

地域医療システム学寄附講座を設置以来、これまでも医学科カリキュラムの実施に協力してきましたが、今年度も、地域医療・総合診療実践学寄附講座として、医学科長からの依頼に基づき、以下の実習及び講義を行いました。なお、地域医療支援センターへ依頼があった講義(※)も一緒に記載しています。

- ・1年生：医学概論※
- ・4年生：公衆衛生学、行動科学Ⅱ、総合診療学
- ・5年生：特別臨床実習
- ・6年生：特別臨床実習

### 【1年生】

医学概論	
2022/6/6	後藤 医師のキャリア形成、多様性推進

## 【4年生】

総合診療学		
2022/4/5	松井	「総合診療学概論 1 (総論)」
2022/4/12	高柳	「総合診療学概論 5 (家庭医療、BPS モデル、患者中心、継続性)」
2022/4/19	佐土原	「総合診療学概論 3 (臨床推論)」
2022/4/26	松井	「総合診療学概論 2 (EBM・診療ガイドライン)」
2022/5/10	佐土原	「総合診療学概論 4 (身体診察)」
2022/4/5	松井	「総合診療学概論 1 (総論)」
2022/4/12	高柳	「総合診療学概論 5 (家庭医療、BPS モデル、患者中心、継続性)」
2022/5/17	高柳	「総合診療学概論 6 (家庭医療・統合ケア・包括性)」
2022/5/24	小山	「総合診療学概論 7 (病院総合診療等)」
2022/5/31	鶴田	「総合診療学概論 8 (高齢者ケア・地域包括ケア)」
2022/6/7	北村	「臨床推論演習 1 (体重減少)」
2022/6/14	中村	「臨床推論演習 2 (倦怠感)」
2022/5/17	高柳	「総合診療学概論 6 (家庭医療・統合ケア・包括性)」
2022/5/24	小山	「総合診療学概論 7 (病院総合診療等)」
2022/5/31	鶴田	「総合診療学概論 8 (高齢者ケア・地域包括ケア)」

公衆衛生学		
2022/6/21	佐土原	「地域保健、地域医療②」

行動科学Ⅱ (医療と社会)		
2022/5/23	後藤	「ストレス対策、リラクゼーション、マインドフルネス」
2022/5/30	後藤	「男女共同参画」

## 【5年生－6年生】

特別臨床実習 (クリクラ：クリニカルクラークシップ)	
<p>&lt;授業の目的&gt;</p> <p>診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師として最低限必要な医学知識、臨床推論、臨床判断・技能・態度などの能力を身につけることを目標としています。</p> <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>現在、5 学年の 7 月から 6 学年の 9 月までの全 14 ターム(1 タームは 3 週間) で実施されている特別臨床実習において、当講座は、平成 26 年度から地域医療を提供しています。</p>	

▼各医療機関の特別臨床実習「地域医療」および「総合診療\*」における学生受入人数

No.	施設名	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	累計
1	阿蘇医療センター	--	--	--	2	3	1	8	7	10	10	41
2	天草地域医療センター	--	--	--	5	5	12	13	9	3	5	52
3	荒尾市民病院	--	--	--	--	5	9	10	11	7	9	51
4	小国公立病院	4	8	9	3	6	4	4	7	7	12	60
5	上天草総合病院	3	10	13	4	0	2	6	8	11	8	65
6	菊池郡市医師会立病院	--	--	--	--	2	7	6	1	--	--	16
7	御所浦診療所	--	--	--	5	2	4	5	2	3	1	22
8	そよう病院	4	4	13	4	0	4	6	4	4	4	43
9	公立多良木病院	1	0	0	6	2	5	11	7	10	3	45
10	人吉医療センター	--	8	19	7	7	20	9	12	18	20	120
11	水俣市立総合医療センター	--	--	--	6	5	9	10	9	15	12	66
12	山鹿市民医療センター	--	--	--	--	5	8	11	9	7	9	49
13	熊本総合病院	--	--	--	--	--	7	13	11	11	13	55
14	熊本労災病院	--	--	--	--	--	10	11	10	13	15	59
15	公立玉名中央病院(クリクラ総診のみ)	--	--	5	17	16	4	15	8	--	--	65
16	河浦病院									1	2	3
17	栖本病院											0
18	新和病院											0
	合計	12	30	59	59	58	106	138	115	120	123	812

R2年度の地域医療はインタビュー実習等を含む  
クリクラ総合診療科実習も含む

◆ 特別臨床実習：地域医療

5学年6月から6学年の9月までの全15ターム(1タームは3週間)で実施(第1～13ターム必須、第14、15タームは選択)されている特別臨床実習において、地域医療・総合診療実践学寄附講座は、平成26年度から地域医療を提供しています。今年度は、県内の16医療機関の協力を得て、5・6年生 延べ123に対し、地域医療実習を提供しました。

▼2021-2022年度 特別臨床実習「地域医療」の受け入れ人数

No.	実習受入先	ターム 年度 期間	今期															合計		
			11 2021 4/18- 5/13	12 2021 5/16- 6/3	13 2021 6/6- 6/24	14 2021 8/22- 9/9	15 2021 9/12- 9/30	1 2022 6/27- 7/15	2 2022 8/22- 9/9	3 2022 9/12- 9/30	4 2022 10/3- 10/21	5 2022 10/24- 11/11	6 2022 11/14- 12/2	7 2022 12/5- 12/23	8 2022 1/10- 1/27	9 2022 1/30- 2/17	10 2022 2/20- 3/10			
1	阿蘇医療センター		1	1	1						1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
2	天草地域医療センター					1	1								1	1	1			5
3	荒尾市民病院		1		1				1	1	1			1	1	1		1		9
4	小国公立病院		1		1				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
5	上天草総合病院		1	1				1	1	1				1		1		1	1	8
6	御所浦診療所			1																1
7	そよう病院					1	1				1							1		4
8	公立多良木病院							1	1	1										3
9	人吉医療センター		2		2			1	2	2	2	2	2	1	1	2	1	2		20
10	水俣市立総合医療センター			2	1			1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
11	山鹿市民医療センター		1	1				1				1	1	1	1	1	1	1	1	9
12	熊本総合病院		1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
13	熊本労災病院		1	1	1	1		1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
14	河浦病院			1		1														2
15	栖本病院																			0
16	新和病院																			0
	合計		9	9	8	4	3	9	10	9	8	9	9	9	9	9	9	9	9	123

▼ 診療所・病院のスケジュール例

人吉医療センター					
	月	火	水	木	金
1 週目	オリエンテーション 総合診療・救急センター 総合診療	キヤンサーボード 小児科	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 訪問看護 訪問診療	五木村診療所	外科合同カンファレンス 総合診療 救急センター 訪問診療 訪問看護
2 週目	モーニングレクチャー ドクターズ会、病棟回診 総合診療 救急センター	五木村診療所	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 選択診療科での実習	プライマリレクチャー 病棟回診 選択診療科での実習	外科合同カンファレンス 訪問診療
3 週目	モーニングレクチャー ドクターズ会、病棟回診 選択診療科での実習	五木村診療所	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 総合診療・科学療法外来 訪問看護またはリンパ 浮腫外来	プライマリレクチャー 病棟回診 選択診療科での実習 総合診療・救急センター	外科合同カンファレンス 総合診療・救急センター まとめ

選択診療科：小児科、産婦人科、代謝内分泌内科(外来)、外科、整形外科、その他希望診療科

御所浦診療所					
	月	火	水	木	金
1 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 府外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 検査 総合診療外来 スタッフミーティング 総合診療外来/訪問診療 振り返り・次週の予定確認
2 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 府外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 検査 総合診療外来 スタッフミーティング 総合診療外来/訪問診療 振り返り・次週の予定確認
3 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 府外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 検査 総合診療外来 スタッフミーティング 総合診療外来/訪問診療 振り返り（個人で）そ の後、総括

◆ 特別臨床実習：総合診療科

この実習は救急・総合診療部の実習ではなく、地域医療・総合診療実践学寄附講座として独立した「総合診療科」の実習となり、1ターム3週間の選択実習を行っています。

今年度、総合診療科としての実習は、大学病院、くまもと県北教育拠点及び河浦教育拠点の3か所で延べ44人の実習を提供しました。

くまもと県北病院					
	月	火	水	木	金
1 週目	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 多職種（リエゾン）カンファ チーム回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 週間振り返り 自己研修
2 週目	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 多職種（リエゾン）カンファ チーム回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 訪問看護 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 週間振り返り 自己研修
3 週目	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 多職種（リエゾン）カンファ チーム回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 緩和ケア回診 チーム回診 振り返り 自己研修	新患・重症患者カンファ 新患・重症患者回診 外来研修 病棟研修 チーム回診 ジャーナルクラブ 実習総括	

### ◆ 卒後教育

#### ① 地域医療に従事する修学資金貸与医師への支援

地域医療支援機構と連携して、地域医療に従事する修学資金貸与医師全員の面談を実施し、本人の専門医としてのキャリア形成と義務履行の両立が図られるように、一人一人の実状に沿ったアドバイスを行いました。

令和4年度の貸与医師の勤務先については、おおよそ地域の医療機関での勤務が始まる4年目の貸与医師32人中26人が知事指定病院での勤務となり、うち年度中途での移動も含めて13人が第2グループ、第3グループの病院等で勤務しています。

#### ② 初期臨床研修医に対する指導

熊大病院群初期臨床研修プログラムで総合診療科を選択した初期臨床研修医5人に対し、総合診療・地域医療に関する教育指導を行いました。

施設名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	研修受け入れ総人数
熊本大学病院							1	1	1			1	
くまもと県北病院 ／くまもと県北教育拠点										1			
河浦病院 ／河浦教育拠点													

#### ③ 専攻医に対する指導

令和4年度は、熊本大学総合診療専門研修プログラムでは、プログラムを修了した専攻医1人が総合診療専門医の資格試験に合格しました。現在、引き続き専門研修に従事する5年目の専攻医が1人（うち1人が今年度終了予定）、4年目の専攻医が1人、3年目の専攻医が1人、2年目の専攻医が1人、1年目の専攻

医が1人それぞれ地域の病院で勤務しており、5年度からはさらに2人が新たに総合診療科の専攻医としてプログラム研修を始めることとなっています。

また、研修の支援・指導の充実を図るため、テレビ会議システムを活用し、総合診療に関する困難事例を情報共有すること、専攻医の抱える症例の共有化を図るとともに必要な助言を適宜行うことなどを遠隔で指導する「合同Webカンファレンス」を5回開催しました。併せて、専攻医等が経験した症例・事例の発表を、テレビ会議システムを通じて各病院へ配信しております。当寄附講座としては、専攻医の研修修了要件であるポートフォリオ(経験省察研修記録)の作成指導なども行っており、年5回のレジデントデイを開催することで専門研修の進捗状況の確認を図り、よりきめ細かい指導に努め、プログラム修了に向けてさらに丁寧な指導に心がけてまいりました。当寄附講座としては、このように地域で必要とされている総合診療医の育成に向けた取り組みを強力に進めているところです。

## ● 熊本大学総合診療専門研修プログラム

当プログラムは、日本専門医機構認定の総合診療医後期研修プログラムです。

熊本大学病院を中心として、熊本県内全域に広がる様々な医療施設の協力のもと、オール熊本として、総合診療専門医の育成に取り組むプログラムです。研修施設には、大学病院や地域中核病院に加え、小規模病院等も含まれ、県庁所在地である熊本市内のみならず、県内の各二次医療圏に研修施設があります。県内全域に広がる多くの施設がプログラムに参加することにより、異なる特性を持つ施設で、その地域に根づいた研修を行うことができ、本人の希望に応じた研修が可能となっています。

また、熊本県医師修学資金貸与の熊本大学卒業生(地域枠入学者を含む)や、熊本県出身の自治医科大卒業生に対し、総合診療専門医としてのキャリア形成支援に寄与することも目指しています。

## ◆ 研修プログラム

プログラム期間は原則として3年間で、総合診療専門研修、必修の領域別研修(内科、小児科、救急)、その他の選択研修で構成されます。将来の自分のキャリアプランに合わせてローテーション、勤務地の選択が可能です。

総合診療研修	総合診療Ⅰ(診療所・中小病院)	6ヶ月以上	合計 18ヶ月以上
	総合診療Ⅱ(病院総合診療部門)	6ヶ月以上	
領域別研修(必修)	内科		12ヶ月以上
	小児科		3ヶ月以上
	救急科		3ヶ月以上
選択科研修	皮膚科、整形外科、精神科、etc...		希望に応じて

### ▼ 総合診療研修・必修領域研修機関一覧

総合診療Ⅰ	阿蘇医療センター	小国公立病院	河浦病院	栖本病院	
	そよう病院	公立多良木病院	新和病院	沢田内科医院	
	安成医院	御所浦診療所	椎原診療所	湯島へき地診療所	
総合診療Ⅱ	熊本大学病院	熊本医療センター	上天草総合病院	くまもと県北病院	
	人吉医療センター	天草地域医療センター	水俣市立総合医療センター		
内科	くまもと県北病院	上天草総合病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	
	熊本総合病院	くまもと森都総合病院	熊本赤十字病院		
小児科	阿蘇医療センター	くまもと県北病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	
救急科	熊本大学病院	熊本医療センター	くまもと県北病院	人吉医療センター	
	天草地域医療センター				
その他の領域	外科	そよう病院	くまもと県北病院	人吉医療センター	天草地域医療センター
		熊本大学病院(消化器外科)	熊本大学病院(乳腺・内分泌外科)	熊本総合病院	山鹿市民医療センター
	産婦人科	人吉医療センター	熊本総合病院	天草中央総合病院	
	整形外科	くまもと県北病院	天草地域医療センター	熊本大学病院	熊本総合病院
	皮膚科	くまもと県北病院			
	泌尿器科	くまもと県北病院	天草地域医療センター	熊本総合病院	
	放射線科	くまもと県北病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	天草中央総合病院
	精神科	熊本医療センター			
	麻酔科	くまもと県北病院			
	リハビリテーション科	くまもと県北病院			
臨床疫学	熊本大学病院				

◆ 研修プログラムのスケジュール例

1. 熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム

① 総合診療コース(例)

卒後（年目）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
① 勤務先の種別	基幹型臨床研修病院		第1グループ		第2グループ	第2グループ	第2又は第3グループ		後期研修（義務内）	義務年限修了
② 勤務（研修）先医療機関候補	臨床研修 県内の基幹型臨床研修病院		専門研修 ・公立玉名中央病院 ・人吉医療センター ・熊本総合病院 ・天草地域医療センター			第2グループの医療機関 ・阿蘇医療センター ・小国公立病院 ・そよう病院 ・公立多良木病院 ・上天草総合病院 ・河浦病院 ・新和病院 ・栖本病院	第2又は第3グループの医療機関		県内の医療機関	
③ 義務償還期間（年）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	—

【備考（総合診療）】

- 第1～3グループ、後期研修（義務内）の順序は入れ替え可能です。
- 第2、3グループの医療機関での勤務期間においては、専門性の向上などを目的として、週1日、勤務先以外の医療機関で研修を行うことが可能です。
- 研修先及び勤務先は、県内の威嚇地域における医師不足状況等を踏まえ、県及び地域医療

地域医療・総合診療実践学寄附講座

② 専門研修ローテート(例)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	くまもと県北病院 総合診療科 内科研修											
2年目	くまもと県北病院 小児科 小児科研修		熊本地域医療センター 救急科 救急科研修			上天草総合病院 内科 総合診療Ⅱ研修						
3年目	河浦病院 総合診療Ⅰ研修											

※ 玉名研修中に総診Ⅱ研修と並行して週1日の救急研修

◆ 研修施設一覧 令和4年度

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1 くまもと森都総合病院    | 13 河浦病院       |
| 2 熊本赤十字病院       | 14 御所浦診療所     |
| 3 熊本大学病院        | 15 栖本病院       |
| 4 熊本医療センター      | 16 天草地域医療センター |
| 5 沢田内科医院        | 17 天草中央総合病院   |
| 6 熊本総合病院        | 18 上天草総合病院    |
| 7 八代市立椎原診療所     | 19 湯島へぎ地診療所   |
| 8 人吉医療センター      | 20 新和病院       |
| 9 公立多良木病院       | 21 山鹿市民医療センター |
| 10 くまもと県北病院     | 22 阿蘇医療センター   |
| 11 安成医院         | 23 小国公立病院     |
| 12 水俣市立総合医療センター | 24 そよう病院      |



#### Ⅳ 専門医資格修得後のキャリア支援について

専門医資格取得後も、熊本大学病院総合診療科として様々なキャリア支援を実施。大学病院という診療・教育・研究機関の特色を活かし、個別のニーズに合わせ、臨床経験だけでなくアカデミックなキャリアも含め、様々な研鑽を積むことができることが特徴です。

専門医取得後の5年間は、これまでも増して重要な時期であるとの考えのもと、卒後6年目から10年目程度の若手医師を中心に様々な指導、支援を実施しております。もちろん、それ以上のキャリアをお持ちの方に対して、要望に応じた支援を行うことも可能となっています。

医師としての臨床能力を磨くことはもとより、指導医として医学生から専攻医までの様々な世代への教育の経験を積むことも可能としております。熊本県内に多数存在する連携機関の協力のもと、各人の要望に応じた多彩な研鑽を積むことができる場を用意しています。また専門医資格取得後、変化する各人の様々な要望に即し、総合診療領域外、あるいは関連する領域についての研修を行うことも支援します。各人の興味のある分野をさらに伸ばせるよう、熊本大学病院総合診療科がバックアップしております。令和3年度から、新たな専門医制度下での総合診療専門医資格修得者4名が、大学病院や地域の医療機関等に勤務しながら、当講座の支援を受けながら各人の希望に応じて研鑽を積んでおります。具体的には、現在、当講座の教員が地域支援先医療機関でカンファレンスや相談に応じるなどの支援を行っています、さらには、対象の医師に対して英語論文の執筆支援を行い、うち1人は症例報告を掲載予定となっております。

また、熊本大学の大学院へ進学し、医学博士の修得を目指す者の支援も実施しております。それまでの臨床経験の中で得た様々な疑問の解決を目指し、各人の興味に応じた臨床研究を推進し、学位の修得を目指した論文作成を指導しています。令和3年度から社会人大学院学生として、大学病院外で勤務しながら研究を行う2名の専門医資格修得者がこの博士課程に在籍しています。

更には、熊本県の医師修学金貸与制度や自治医大の卒業生など、地域での診療に従事する義務がある方々に対しても、義務の償還を行いながら、キャリア形成支援を継続することが可能であるのも特徴です。総合診療科と当寄附講座及び地域医療支援機構が一体となって、引き続きそれまでの研鑽で身に着けた能力を生かし、様々な施設、あるいは地域で活躍の場を見つけることを支援しています。

## ▽ 講演会

### ● 2022年 6月22日 第9回 熊本大学総合診療セミナー 「ALPにもっと光を！」

<講師>

飯塚病院 総合診療科 診療部長 清田 雅智 先生



### ● 2022年 9月13日 第10回 熊本大学総合診療セミナー 「社会的処方 ～まちとのつながりで人が元気になる方法」

<講師>

川崎市立井田病院 西 智弘 先生



### ● 2022年11月22日 第11回 熊本大学総合診療セミナー 「日常臨床をアップデートせよ！ ～診療で使えるアプリケーション10選」

<講師>

医療法人社団孔和会 松本内科・眼科理事長  
松本 朋樹 先生

### 「日常診療を一步先へ ～diseaseとillnessを学ぼう」

<講師>

阿蘇医療センター 内科 平賀 円 先生



### ● 2023年 3月29日 第12回 熊本大学総合診療セミナー 「地域ケアの最前線！ 総合診療医の能力を200%活かす コミュニティホスピタルとは」

<講師>

医療法人 博愛会 穎田病院 総合診療科長  
吉田 伸 先生



## Ⅳ 総合診療医育成のためのPR活動

### ◆ 熊本大学病院総合診療プロモーション動画制作

地域における医療提供体制の実情と総合診療医へのニーズの高まり、そしてその魅力を医師の日々の医療活動を通して紹介し、若手医師及び医学生に地域医療マインドの涵養を図るとともに、総合診療医を目指す動機付けとすることができるよう、5分程度の総合診療プロモーション動画を作成しました。この動画は、総合診療科のホームページに掲載し、多くの皆さんに視聴いただくとともに、プライマリ・ケア連合学会学術集会等全国的な学会・イベントにおいて、熊本大学病院総合診療専門研修プログラムの紹介動画として活用することとしています。

プロモーション動画「総合診療医 最前線を駆け抜ける。」

[https://kumadaisoushin.com/training\\_program#tp\\_fi](https://kumadaisoushin.com/training_program#tp_fi)



熊本大学病院 総合診療科ホームページの開設

<https://kumadaisoushin.com/>

地域医療・総合診療実践学寄附講座としても、総合診療医を育成する観点から、広く関係者に総合診療科の活動をPRする総合診療科のホームページを開設しました。当寄附講座ホームページとリンクして、令和3年3月に新たに設置された熊本大学病院総合診療科の活動状況等を紹介し、総合診療の必要性、魅力、重要性等を医療関係者のみならず広く一般に情報発信し、理解を深めてもらうこととしています。



## 4. 専攻医の声



早川 香菜美 先生

令和4年度は人吉医療センター総合診療科で勤務をしておりました。外来、病棟、救急、五木村診療所に加えてCOVID19の対応など幅広く経験することができ、大変ではありましたが、とても充実した1年間となりました。今まで経験の少ない分野の症例も多数経験させていただき、他の専門医の先生にご助言をいただいたり、自分で調べたりなど試行錯誤しながら日々の診療にあたっておりました。その時は目の前のことに一生懸命で、きついと思うこともありましたが、思い返してみるとその経験が自分の力になっていると感じます。

総合診療専門研修の内科分野の研修を行わせていただき、無事、すべての専門研修プログラムの課程を修了することができました。関係各所の皆様には大変お世話になりました。

## 下地 徹 先生

2020年1月から2023年3月までくまもと県北病院で勤務しました。その間、内科全般、総合診療科、小児科研修を行いました。2022年度は総診I研修を行いました。外来、救急外来、一般病棟、HCUといった病院診療の中で、多彩な急性期～慢性期疾患、COVID-19診療、訪問診療、多職種連携、看取りなども学ぶことができました。印象に残っているものは書き切れませんが、その一つに地域連携があります。くまもと県北病院は地域医療連携室が非常に頑張っており、退院調整を含め、地域の医療機関との連携には無くてはならない役割を担っています。困難症例に当たる度に連携室でじっくりと相談させていただくことができ、患者・家族との面談に必ず同席いただきました。あの環境で地域医療や福祉を学べたことが、自分の成長につながったのではないかと考えています。

今後ですが、4月からは熊本大学病院にて救急研修、7月からは天草市立河浦病院で総診研修を行う予定です。今後とも皆様からのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 本田 宏介 先生

河浦病院に来て1年半が経ちました。ここは患者さんの年齢層が高く、外来患者さんの平均年齢は70代後半～80代、入院患者さんの平均年齢は80代後半～90代です。重度の難聴や認知症、方言で話す方も多く、簡易拡声器などを用いてコミュニケーションをとっています。僻地で交通の便が良くないので、なかなか病院への通院ができない方のために訪問診療も行っています。訪問診療では聴診器と簡易超音波検査機器しか持っていけないため、問診や身体診察が重要になります。

地域柄、ムカデ咬傷やマダニ咬傷の患者さんも多く、専用の器具で除去しています。年齢層が高いため、転倒後の体動困難や骨折、脊椎圧迫骨折など整形外科的疾患の患者さんも多いです。小さい病院の利点で各診療科間の垣根が低く、整形外科の先生に指導していただいています。都会では珍しい地域ならではの疾患、地域の方々との親交や信頼関係構築など、まだまだ勉強すべき事はたくさんありますが、楽しく頑張っています。

## 松岡 隼平 先生

こんにちは。専攻医3年目の松岡隼平と申します。私の前年度の活動について簡単にご報告させていただきます。

前年度は、くまもと県北病院総合診療科、同院小児科、熊本医療センター救急科、上天草総合病院内科、診療所勤務、学校医、訪問診療なども経験させて頂き、かなりバラエティに富んだ研修内容でした。医師という職業の需要の幅広さを実感できました。

特に自分の中で印象的だったのは、家庭医という存在の公衆衛生上の重要性です。日々一日20人程の外来患者を見ていたのですが、ほとんどは安定している人ですが、私たち医療従事者から見たら信じられないような医療リテラシーの低い方と出会うことが多々あり、適切に教育を行い生活習慣病、ひいては重大疾患へ進展するのを予防することの重要性が直感でわかりました。

今年は、専門医の先輩の元、自分の診療スキルの洗練と手技の上達を課題に上げ研鑽していこうと思っています。ご指導ご鞭撻の程を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 西富 友哉 先生

2022年3月に天草地域医療センターでの初期研修を終え、4月より熊本大学病院総合診療科へ入局しました。4月から7月まではくまもと県北病院に勤務し、外来診療、入院診療、救急外来、コロナ外来などを行いながら、地域の基幹病院における総合診療科の役割を学びました。8月からは大学病院へ異動し、10月までは救急外来、その後は救急外来と総合診療科外来を並行して学びました。初期研修、くまもと県北病院、大学病院と施設が変わるたびに患者さんの層や求められる診療内容も変わり、一口に総合診療科と言ってもその守備範囲が多岐に渡ることを改めて実感した年でもありました。一方で、類似した症例を繰り返し診る機会が少なく、知識や技術の定着という意味では課題となったように思います。

2022年はオミクロン株の流行やウクライナ戦争、世界的なインフレなど、多くの国や地域にとって試練の多い年でありました。今後の情勢がどうなっていくのか予測できませんが、将来様々なフィールドで貢献できるよう、2023年も一つ一つ経験を積んで行きたいと思っています。

# 4 教育拠点

## くまもと県北教育拠点

### 1. 活動概要

くまもと県北教育拠点は2015年4月、公立玉名中央病院に地域医療の支援及び地域医療の実践教育を行うべく開設されました。2名の常駐寄附講座教員でのスタートでしたが、2021年3月、玉名地域保健医療センターと合併し、新たに「くまもと県北病院 くまもと県北教育拠点」として移転し、2023年3月現在、指導医5名、総合診療専門医研修の専攻医1名に加え、さらに地域医療・総合診療実践学寄附講座から人的サポートもあり、病院の診療支援および実践的な教育の提供を継続しています。

2022年卒後臨床研修プログラム研修医(基幹型1年次：8名、2年次：4名、協力型：計1名)特別臨場実習(クリニカル・クラークシップ)の「総合診療科」の受け入れも積極的に行ってまいります。地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフは、医学生、初期研修医、専攻医とともに総合診療科として救急外来、一般外来、入院、在宅医療に取り組み、地域の医療を支援しつつ、実践的な教育を行っています。8年経過した現在までに、診療面については救急車不応受率4%を下回り、救急車受け入れ台数も2800台/年以上を維持し(いずれも県北地域最高の成績)、入院患者数も右肩上がりの業績を達成しております。その結果、2022年度は基幹型研修医は定員の8名がフルマッチを達成し、2023年度も7名がマッチしました。

新型コロナウイルス感染(COVID-19)についても、田宮医師が対策委員長として指揮し、総合診療科も院内の感染対策チーム、有明保健所、郡市医師会および近隣の感染症指定病院と連携をとり、COVID-19のトリアージ業務、外来・入院診療ローテーションに感染チーム医師・呼吸器内科医師とともに参画しています。

一方で、コロナ後に向けた取り組みも既に開始し、中でも国際交流の機会を広げるべく、拠点が中心となり、タイ国のメーファールアン大学との教育協力の再開が決定しました。

2021年10月に田宮医師が病院長に任命され、新体制の下、くまもと県北病院及び当拠点は、地域医療において円滑に発展し、行政並びに玉名郡市医師会とも引き続き協力し、更に発展すべく、尽力する次第です。



タイ国チェンライのメーファールアン大学病院

### 2. 年間活動実績

月	日	行事
4	1	オリエンテーション
	1, 5, 8, 12, 15, 19, 22	郡市医師会新型コロナウイルス会議
5	13	玉名在宅ネットワーク会議
6	6, 10, 13, 17, 20, 24, 27, 31	郡市医師会新型コロナウイルス会議
	8	玉名在宅ネットワーク会議
7	1, 5, 8, 12, 15, 19, 22, 26, 29	郡市医師会新型コロナウイルス会議
	12	玉名在宅ネットワーク会議
8	2, 5, 9, 12, 16, 19, 23, 26, 30	郡市医師会新型コロナウイルス会議
	9	玉名在宅ネットワーク会議
9	11	有明地区研修医合同カンファレンス
	2, 6, 9, 13, 16, 20, 27, 30	郡市医師会新型コロナウイルス会議
10	14	玉名在宅ネットワーク会議
	4, 7, 11, 14, 18, 21, 25, 28	郡市医師会新型コロナウイルス会議
11	11	玉名在宅ネットワーク会議
	1, 4, 8, 11, 15, 18, 22, 25, 19	郡市医師会新型コロナウイルス会議
12	9	玉名在宅ネットワーク会議
	2, 6, 9, 13, 16, 20, 23, 27	郡市医師会新型コロナウイルス会議
1	13	玉名在宅ネットワーク会議
	6, 10, 13, 17, 20, 24, 27, 31	郡市医師会新型コロナウイルス会議
2	10	玉名在宅ネットワーク会議
	3, 7, 10, 14, 17, 21, 24, 28	郡市医師会新型コロナウイルス会議
3	17	玉名在宅ネットワーク会議
	3, 7, 10, 14, 17, 28, 31	郡市医師会新型コロナウイルス会議
	14	初期臨床研修 修了式



2019年 最初の教育協力協定調印式

### 3. 活動報告

#### 1 教育活動

##### ◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部の1チーム3週間の特別臨床実習(総合診療科 クリニカル・クラークシップ)をくまもと県北教育拠点で受け入れています。

本年度も各学生に入院患者の担当を割り当て、それぞれが日常診療業務に医療スタッフの一員として診療に参加し、診療の中から自らのクリニカルクエストを見出し、これに基づいた論文検索から担当患者への適応までを期間内で実践することとし、学習成果の発表を抄読会形式で実施し、評価の場としております。

コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、時に訪問看護実習が中止されたり、実習そのものが中断されることがあり、院外実習のカリキュラムが十分に遂行できない状況がありました。そんな逆境の中でも訪れた学生は積極的に実習に参加し、コロナ禍でこそ経験できた実習を含め、最低限の成果は得られたものと考えます。

2022年度以降、依然としてCOVID-19診療を行いつつ、診療を通じた教育を更に発展させ実行する為には、科学に基づいた予防策を十分に実施し、指導医、専攻医、研修医、医学生の「屋根瓦式」の指導・教育体制が不可欠です。今後の引き続き多くの医学生が満足できる地域での医学教育の環境、質の向上に努めたいと思います。

ゆっくりだけど、確実に前進

#### くまもと県北教育拠点における週間スケジュール

1-2週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケア レクチャー	プレゼン研修	
8:00	救急合同 カンファ	モーニング レクチャー			
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療 or 緩和ケア回診 (不定期)	外来レビュー/ 各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾン カンファ		病棟研修	病棟研修
16:30	患者 カンファレンス	病棟研修	病棟研修		皮膚科合同 カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

3週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケア レクチャー	プレゼン研修	
8:00	救急合同 カンファ	モーニング レクチャー			
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療 or 緩和ケア回診 (不定期)	外来レビュー/ 各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾン カンファ		病棟研修	病棟研修
16:30	新患 カンファレンス	病棟研修	病棟研修	TMEC	皮膚科合同 カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

- プライマリケアレクチャー：  
熊本県地域医療支援機構で受講可能なオンラインレクチャー
- モーニングレクチャー：  
臨床のみならず、地域医療に関するレクチャー
- リエゾンカンファ：  
総合診療科入院患者の退院に向けての目標設定、艦長調整を多職種で検討するカンファレンス
- TMEC：  
クリニカルクラークシップ医学生による担当症例についての発表会

教育拠点



救急外来に設置された安全キャビネットとLAMP機器

## ◆ 初期臨床研修(総合診療科研修)

2022年度はくまもと県北病院の基幹型研修プログラムに8名の研修医がマッチし、基幹型2年次4名と国立熊本医療センタープライマリケアコースの協力型として1名、計13名の初期臨床研修医(研修医)を受け入れました。くまもと県北教育拠点は、総合診療科研修および地域医療研修を担当し、指導を行いました。

まず総合診療科研修で研修医は、外来・入院・訪問診療を研修し、自らが診療の始めから終わりまでを一貫して実践し、研修医中心の参加型研修を実践しました。研修医は患者を「主治医」として担当し、指導医との連携の中で中心的な役割を担います。この事で、研修医からは「自分の患者」という意識が芽生え、責任感と医師になったことの実感が得られたとの評価を得ています。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつ、十分な予防策を取った上、可能な限りの実習を実践しました。

結果、2023年度の基幹型卒後臨床研修医は7名マッチを達成しました。

## ◆ モーニングレクチャー

モーニングレクチャーとは…

- \* 各診療科、部署のエキスパートから実践に即した知識や技術を学ぶ場です。写真は、眼科医による眼底鏡の使い方指導の風景です。
- \* 指導は医師に限らず、様々な職種のスタッフに協力していただき、幅広いテーマの研修が可能となっています。



## ◆ 講演会・セミナー

新型コロナウイルス感染の蔓延で講演会・セミナーは多くがオンラインとのハイブリッド開催となりました。その中で「日本内科学会九州地方会」「有明地区研修医合同カンファレンス」「日本プライマリ・ケア連合学会九州地方会」はWEB開催となり、初期研修2年次の嶋永先生が症例発表を行いました。尚、嶋永先生は内科学会地方会で奨励賞を受賞されました。

## ◆ 総合診療専門医(専攻医)研修

くまもと県北教育拠点およびくまもと県北病院では、熊本大学総合診療専門研修プログラムの「総合診療Ⅱ」、「内科研修」、「小児科研修」および「救急研修」を実施しており、2022年度は1名の専攻医が研修しました。彼らは自らの診療研修にとどまらず、初期研修医、医学生の教育の一端を担っています。この為、病院機能もかなりの部分で専攻医に依存する部分も多くなっており、専攻医の負担を軽減するシステムの構築(働き方改革)と総合診療専門研修プログラムへのリクルートは重要になっています。その様な中、2023年度からは2名の新しい専攻医を迎えることになり、今後の発展に期待されます。

## II 診療

くまもと県北病院で、総合診療科での外来および入院診療を行っています。また、他診療科からの相談(院内コンサルテーション)や救急診療にも携わりました。

総合診療科での診療に当たり、くまもと県北教育拠点に常駐する指導医5名(内科専門医・指導医、プライマリケア認定医・指導医、病院総合診療認定医・指導医、リウマチ専門医、総合診療専門医、家庭医療専門医、血液内科専門医)の他、研修医、地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員も外来診療、救急医療に携わりました。

くまもと県北病院 総合診療科外来担当医表

月	火	水	木	金
小山	小山	田宮	松井	小山
草野	草野	草野	小山	中村
中村・下地	中村	下地	下地	
佐藤(午後)				佐藤(午後)

## III 年間診療報告

玉名拠点開設から8年目となりますが、医学生、初期研修医、専攻医および地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフがチームを形成し、総合診療科外来として外来診療および他診療科からのコンサルト対応を行うとともに、平日の救急外来を担っています。コロナ禍で受診控えで受診患者数が減少する中でも、入院患者数は徐々に増加傾向にあります。

また、救急診療では受入件数もくまもと県北地域最多を維持しており、不応需率も低い値で推移しています。



2022年度 研修医 全12名

くまもと県北病院基幹型：11名(1年次：8名、2年次：3名)

熊本医療センター：1名(2年次)

# 河浦教育拠点

## 1. 活動概要

河浦教育拠点は2021年に天草市立河浦病院に設置され、その年の10月よりレジデント1名の受け入れを開始しました。また、クリクラとして総合診療、地域医療で熊本大学医学部の学生を受け入れています。2022年度も総合診療5名、地域医療2名を受け入れました。今後もさらに受け入れ数を増やすことを目標にしています。

## 2. 年間活動実績

クリクラとして総合診療、地域医療ともに希望がある際に受け入れを行う。同時に1～2名程度。

## 3. 活動報告

### I 教育活動

- クリクラ  
総合診療5名、地域医療2名。その他、個人的に申し入れがあった他大学学生の病院見学・実習あり。
- 初期研修  
熊本赤十字病院より4名
- 後期研修  
総合診療科 本田医師

### II 診療

- 外来担当  
鶴田：月・火・水  
本田：木・金

### III 年間診療報告

#### ◆ 診療

外来患者数、入院患者数、在宅診療患者数とも、1年前と比較して患者数の増加があります。1年前は途中までレジデントがおらず総合診療科医一人だったため、医師数増加したことも患者数増加の一因ではありますが、それだけではなく、特に外来、在宅については着実に総合診療科への患者の認知、定着があると考えられます。実際、自分自身の外来予約患者数は昨年と比較し増加しています。また、レジデントは特に発熱外来で外来診療に大きく貢献してくれました。

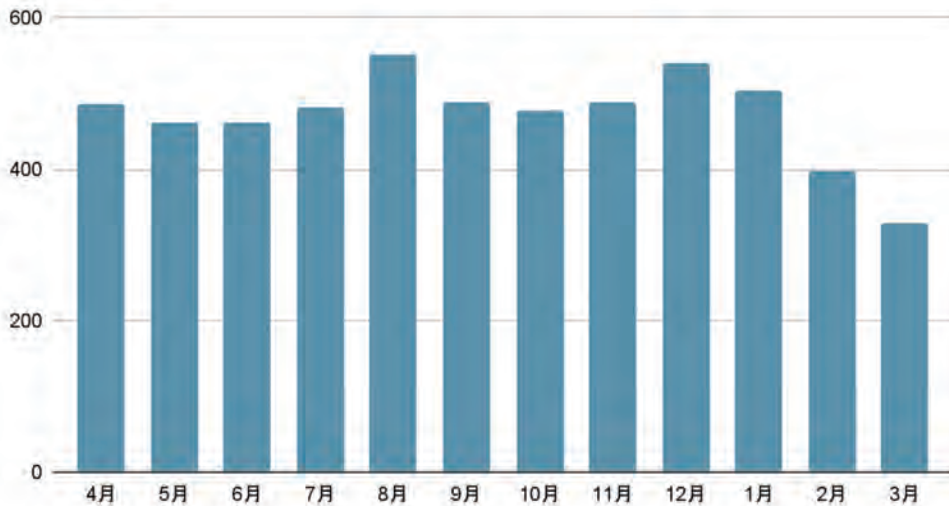
#### ◆ 院内活動

在宅業務の院内職員を中心に、院内活動の活性化を図ってきました。2022年春からは、院内多職種メンバーの意欲から、Advanced Care Planning (ACP) についての活動を院内外で行っていくことを開始しました。そのため、ACP委員会を院内に設置し、勉強会や広報活動などを開始するようになりました。また、院内外での勉強会などの活動を行ううえで必要なファシリテーションスキルを磨きたいと院内有志から希望が挙がり、ファシリテーションの勉強会を不定期ですが行うようになりました。現在も院内スタッフのスキル向上に取り組んでいます。その他、パソコンや携帯電話操作が苦手な職員を対象にZOOMの使い方講習を行い、オンライン勉強会への参加を促す取り組みも行いました。

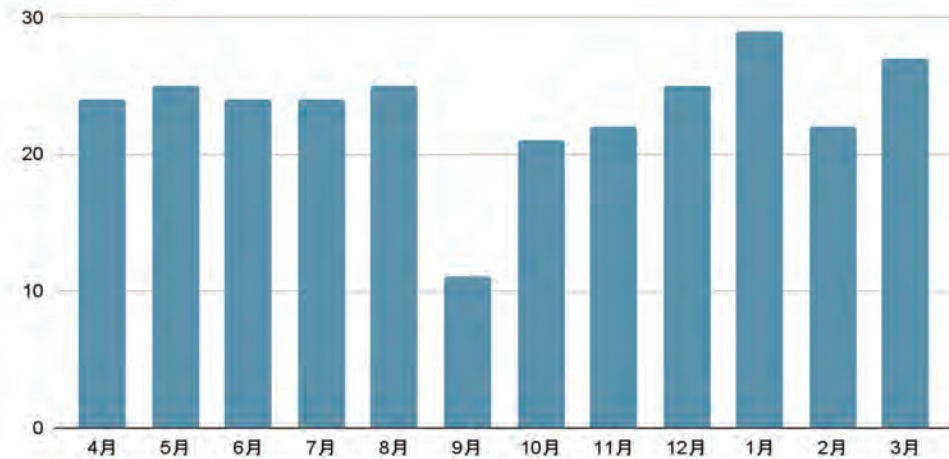
## ◆ 地域活動

天草西地区地域の多職種合同の連携チーム「しきちの会」のメンバーとして多職種とのかかわり、研修会などの取り組みをおこなってきました。一般向けの勉強会はコロナ禍のためなかなかおこなえませんが、3月の河浦地区での祭りには病院として参加し、健康に関する啓発活動を行いました。また、行政と連携し、河浦地域で比較的多い糖尿病への啓発活動、健診の啓発活動、病院との関わりのない高齢世帯への訪問調査などの検討や実施を行ってきました。その他、当院は国診協関連病院であることもあり、国診協若手の会世話人として全国規模で国診協の勉強会などを行うメンバーとして活動しています。

### 外来患者数



### 訪問診療数



## Ⅳ セミナー・勉強会等

- 6月22日 院内勉強会（成人学習）
- 6月頃放送 ケーブルテレビ健康講座（フレイルについて）
- 9月14日 症例勉強会（肝内胆管癌症例：本田先生発表）
- 10月26日 地域多職種勉強会（ACP）
- 11月1日 社会福祉協議会講演会（糖尿病）
- 11月25日 国診協若手の会勉強会（診療所経営）
- 2月24日 国診協若手の会勉強会（行政との付き合い方）
- 2月27日 院内勉強会（ACP）



# 5 熊本県医師修学資金貸与制度

## 1. 地域医療ゼミ

### I 概要

熊本県医師修学資金貸与制度を利用している学生は32名おり、毎月1回、地域医療に関する興味・関心を深めることを目的として、学生達で企画した内容を中心に「地域医療ゼミ」を開催しています。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、主にリモートでの開催となりました。そのような中、遠隔地の講師によるセミナーの開催等、オンラインの利点を生かしたゼミを開催することが出来ました。

なお、第1回ゼミは、新入生の歓迎をかねて自治医大生、県外卒の学生も参加できるように対面とリモート(Zoom)のハイブリット方式で実施し、また、第11回ゼミは、6年生の卒業を祝って追出しゼミとして対面で実施しました。

1年生	1人
2年生	5人
3年生	5人
4年生	7人
5年生	6人
6年生	8人

### II 活動報告

#### ◆ 第1回地域医療ゼミ(2022年4月21日/対面とオンラインのハイブリット方式で開催)

新たに熊本県医師修学資金貸与学生として入学した1年生と自治医大の1年生の自己紹介、学年を超えたグループを作って歓談を行うなど、学生間の親睦を深めました。

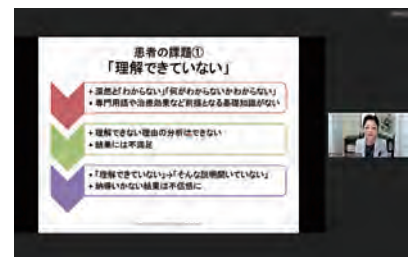


#### ◆ 第2回地域医療ゼミ(2022年5月19日/オンラインにて開催)

熊大生が語る、熊本大学のキャンパスライフとキャリアと題して、自治医大生も聞くという観点から熊本大学医学部の6年間や地域卒の義務とキャリアについて、熊本大学の学生から発表がありました。

#### ◆ 第3回地域医療ゼミ(2022年6月16日/オンラインにて開催)

多職種連携について、ささえあい医療人権センター COMLの山口育子氏から「患者と医療者が協働する医療を目指して」と題して講演をいただき、患者が医師に求めるインフォームドコンセントとは、患者が医師の説明を理解するために、医師として何をすべきか等について講師のお話をお聞きしました。



#### ◆ 第4回地域医療ゼミ(2022年7月21日/オンラインにて開催)

8月9日、10日で予定されていた夏季地域医療特別実習について、地域医療・総合診療実践学寄附講座及び地域医療支援センターの教員からの説明を受けました。学生たちは、夏季実習のスケジュール、当日の各自の行動、新型コロナ感染防止対策等について、それぞれ確認をしていました。しかしながら夏季実習については直前に中止が決定しました。

#### ◆ 第5回地域医療ゼミ(2022年9月15日/オンラインにて開催)

熊本県医師修学資金貸与医師・学生、自治医科大学生・卒業医師が義務履行期間中必ず勤務する必要がある第2グループの知事指定病院及び第3グループの病院等のうち勤務期間の換算が第2グループ扱いとなる診療所について、リモートでの説明会(第1回)を実施しました。

第1回は、上天草総合病院、公立多良木病院、湯島へき地診療所の3施設から説明を受けました。参加

した学生・医師たちは、そこで勤務する医師から普段の医療活動の様子や専門医資格の取得等キャリア形成の実情、勤務先での指導状況等についての説明を受け、将来の勤務についてイメージを膨らませていました。

#### ◆ 第6回地域医療ゼミ(2022年10月20日／オンラインにて開催)

熊本県医師修学資金貸与医師・学生、自治医科大学生・卒業医師が義務履行期間中必ず勤務する必要がある第2グループの知事指定病院及び第3グループの病院等のうち勤務期間の換算が第2グループ扱いとなる診療所について、リモートでの説明会(第2回)を実施しました。

第2回の説明会では、阿蘇医療センター、小国公立病院、河浦病院、栖本病院、新和病院、御所浦診療所からの説明を受けました。



#### ◆ 第7回地域医療ゼミ(2022年11月17日／対面にて開催)

シネメデュケーションとして、医療をテーマにした動画を視聴し、グループに分かれて感想を話し合いました。災害時トリアージについての内容に、熊本地震と度々起こる災害の経験を重ね、改めて医師としての責務を学べた貴重な時間になりました。

#### ◆ 第8回地域医療ゼミ(2022年12月15日／オンラインにて開催)

今回は、自治医科大生の企画で、実施しました。自治医科大の概要について説明を受けた後、グループに分かれて、メディア授業のメリット・デメリット、自治医大卒の現役医師へのインタビューをとおして、現役医師のオンライン活用事情について理解を深め、内容に関する感想を話し合いました。

#### ◆ 第9回地域医療ゼミ(2023年1月19日／オンラインにて開催)

「制度とキャリア」をテーマにゼミを開催しました。最初に当センターの教員から、専門医制度の内容や運用の状況について説明を受け、次に県医療政策課から9月に更新された熊本県キャリア形成プログラムの説明、女性のライフイベントと義務年限の取り扱いについて説明を受けました。そして最後に3人の初期臨床研修中の修学資金貸与医師から臨床研修の現状についての報告がありました。

#### ◆ 第10回地域医療ゼミ(2023年2月17日／オンラインにて開催)

熊本県医師会が主催し、熊大病院地域医療支援センターと日本医師会が共催となる「令和4年度医学生・研修医等をサポートするための会セミナー」に参加しました。今回のテーマは、「医師の育休とキャリアについて考える」で、育児休業を経験した2人の男性医師から講演いただきました。また、講演後「育休とキャリア」をテーマにグループワークも行われました。

#### ◆ 第11回地域医療ゼミ(2023年3月24日／対面にて開催)

今年度最後となったゼミは6年生の追いゼミとして、対面による開催となりました。学生18名が参加し、卒業生挨拶、花束贈呈で6年生の卒業を祝いました。また、皆勤賞、功労賞の表彰、次年度より新たな幹事学年となる4年生代表からの挨拶や来年度の地域医療ゼミの実施計画についても説明がありました。



## 2. 令和4年度卒業生

### ● 吉田 梨紗

心折れては立ち直りを繰り返し、崖の端にしがみつこうような心地にもなりつつ何とかここまで上って来ることが出来ました。それもこれも両親や友人、寄附講座の先生方を始めとする周囲の皆様の助力あつての事であり、この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。また修学資金貸与制度による金銭的不安面の解消にも大いに助けられて参りました。その御恩の大きさによって採らずに済んだ選択もあり、これからの人生報いる思いで貢献をしていきたい所存です。

お世話になった手前、今までの大学生活の後悔を包み隠さず述べることこそ必要なのではないかと思いますが、そうした思いで全てを総括する境地には誠に残念ながら未だ心が至れておりません。それでも書けることがあるならば、もっと私は人の優しさを信じるべきでした。人間悩みは尽きぬものですが、独りで抱え込むより周りに小出しにする方が恐らく総合的に幾分かマシな結果を招いたのと思います。

その独りで思うことの危うさを実感した例を一つ。先日、所属する弓道部で数年ぶりに追い出しコンパと射会が開催されました。入学当初は弓道経験者で電車通学生だったことから足繁く通った弓道場も、最近では忙しさやコロナ禍等で随分と遠くなり。そうして離れてしまった日々の中では部活と言うと幹部時代の失敗や引退後の後悔ばかり思い起こされるようになってしまい、遂には先の会への参加でさえ一瞬の逡巡が生じるほど部への所在がなくなっておりました。しかし、最後に在校生から送られたアルバムには忘れてしまっていた自らの弾けるような笑顔が沢山載っており、後輩の心遣いと懐かしさに感涙しました。この思い出を無視してしまっていたのかと愕然とするほどまでに物の見方は心境と環境に左右されるのだから、たまには他者の視点を取り入れることを意識せねばと強く思う出来事でした。

未だ道半ばであり、今後も険しい道のりと思いますが、反省を胸に出来る限り抱え込み過ぎず前に進めればと思います。

### ● 天野 ゆり

念願だった医学部に入学が決まり、胸が高鳴りながら入学式に臨んだのもついこの間のこのように感じます。浪人を経ての入学なので、自転車で通い始めた通学路はとても感慨深いものでした。1年次は部活の新歓や専門・教養科目で黒髪・本荘キャンパス間を行ったり来たりし、部活が決まると放課後の練習や強練、大学間の対抗戦、西医体などで本当に毎日が慌ただしく過ぎていきました。2年次は、親しい友人もでき大学にも慣れてきた頃で少しは楽になるかと思いきや、解剖実習・座学・合間の車校通い・部活の幹部交代であつという間に過ぎ、、、。3年次になると勉強内容も医学総論から各診療科に変わり、ようやく医学を学んでいるという実感がわき始めました。医学部は入学してから試験が多いとは伺っていたのですが、3年次後期～4年次前期にかけてのポリ前試験やCBT、OSCEは長期間ずっと試験勉強が続くので私にとって精神面でとても鍛えられた期間でした。

実習が始まると朝が早くて冬の時期は大変でしたが、身体診察のとり方や手技を見る機会も得られ、患者を通してこれまで勉強してきた内容への理解がより一層深まりました。地域枠では部活で中々ゼミに参加することができなかったのですが、1～2年の夏期実習で天草と水俣に行ったことをよく覚えています。私は熊本市内の生活しか経験したことがなかったのですが、実際に其々の地域に行ってみると美味しい食べ物や特産物、素敵な景勝地があったりと地域の魅力に触れることができました。一方で高齢化や診療科の偏り、医療・公共交通機関へのアクセスのしにくさなど地域ごとに抱える問題も異なり、医療者として熊本の地域医療の実情を把握していく責務があると感じました。大学での6年間には楽しいだけでなく、自身の将来に悩んで苦しかった時期もありましたが支えてくれる家族や友人、周囲の方々の存在は大変大きかったです。これから医師としての人生が始まりますが、志を忘れず時にはリフレッシュしながら、患者に寄り添う医師になれるよう精進したいと思います。6年間大変お世話になり、誠にありがとうございました。

### ● 野口 実奈

6年前に地域枠の学生として入学してから、時がたつのは早いもので卒業しようとしています。6年間の勉強は入学前に想像していたものよりもとても大変で、多くの苦労や努力がありました。仲間と切

磋琢磨しここまで来ることが出来ました。みんなと過ごした6年間は自分の人生の中で忘れられない思い出です。特に国試前には勉強部屋で、みんなで励ましあいながら勉強をしたのも今ではいい思い出です。

低学年の頃は座学がメインになりますが、学年も上がってくると実習が増え、楽しみも増えました。座学はよくわからないと思うことが多いですが、学年が上がるにつれ以前学んだ基礎がとても大切なことを身に染みて実感しました。

高学年になると、朝は早く夕方まで実習と大変なことも多かったですが、あと数年後には自分もこうやって働いていくという自覚も出てきて、楽しい日々を過ごすことが出来たと思います。特に地域医療では町の方たちとより近くで話をすることができ、手技の面でも多くの経験をさせて頂きました。どの実習よりも一番楽しく参加できたと思います。

ここ数年はコロナ禍ということもありしばらく開催されていませんが、私が入学したばかりのころは夏季合宿が行われていました。他の学生と異なり夏の合宿に参加し、熊本の地域のことについて調べ、その土地の方々と話をしたり郷土料理を食べたりと交流をするということは本当にいい経験になったと感じています。熊本の地域について深く知ることができ、将来地域で働くことがより楽しみになりました。

4月からは人吉医療センター、来年の1月からは熊本大学病院で研修させていただく予定です。この6年間で学んだことがしっかりと生かせるように頑張ります。

### ● 松岡 直樹

6年間大変お世話になりました。入学時は6年間も学生をするなんて長いなと思っていましたが、今思い返すとあっという間の6年間でした。

熊本地震に被災しながら浪人を経験し、現役の頃から志望していた本学へ合格した日の喜びを昨日のことに覚えております。思い返せば主に部活にバイト、勉強三昧の大学生活でしたが、6年間で様々な経験を通じて人間的に成長できたのではないかと感じます。

大学1年生では高校までやってきた勉強との質の違いに慣れず、2、3年生では覚える知識量の多さに戸惑っていたのを思い出します。4年生に進級する頃から新型コロナウイルスの流行が始まり、今までの生活から一変し、様々な場面で制約が生まれ戸惑う毎日でした。地域ゼミでの夏季実習もここ数年無く、自治医科大学の学生、後輩や先輩、諸先生方との交流が少なかったのがとても残念でなりません。4年生からの病院実習では座学で学んだことがどの様に臨床現場で使われているのか、新しい知識を常に学ぶことの大切さなど、様々なことを学ぶことができました。6年生では卒業試験に落ちて1年生以来の再試になってしまいかなり精神的に参っていました。ただ自分の甘さを自覚しそこから更に勉強に励めたので、結果的には良い経験だったと思います。

4月からは国立病院機構熊本医療センターで初期研修が決まっております。いよいよ医師として社会に出ることに期待と不安の両方を感じております。正直私なんか先輩方の様に働けるのか、という不安の方が大きいですが、初期研修を通して知識・技術の研鑽に励めたらと思います。まだまだ未熟ではありますが、これからは熊本の地域医療に少しでも貢献できるように頑張っていく所存です。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、スタッフの皆様に感謝申し上げます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

### ● 渡邊 光紗

医学部6年間で振り返るにあたり、まずは写真を見返しました。初めての自炊、部活動のイベント、組織学のスケッチ、西医体、夏季実習で訪れた天草・人吉、ポリ前授業のメモ書き、旅行の写真などがあり、充実した大学生活を送ることができたと感じています。Covid 19の流行以降は、ほとんどが勉強に関するスクリーンショットとなり、合間合間には自然や動物の写真が多く見受けられ、癒しを求めていたのだと思います。医学生にとって、自宅でじっくりと学習する時間が増えたことは結果的に良かったと思うと同時に、人との関わりが途絶えてしまった時に、一縷の不安を覚えたことが思い出されます。5・6年生時の実習も一部は非対面での実施となり、実際に患者さんとコミュニケーションを取る機会が少なくなったことは今でも心残りです、今後取り返して行かなければと思っています。

地域枠として入学して以来の活動に絞って振り返ると、近年は制約もありましたが、毎月の地域医療ゼミや夏季実習、国保地域医療学会、COCODE！の対談など様々な活動に参加させていただき、地域医

療に関する見聞を深められたこと、大変有り難く感じております。特に夏季実習では、実際に各地域を訪れ、情報を収集し、現地の方々の意見を踏まえて自分たちなりの対応策まで考えるという良く練られた実習計画のお陰で、地域で本当に求められる医師像とは何か、自分が将来目指すべき地域医療の在り方とは…などと深く考えさせられました。それらが叶ったのは、地域医療・総合診療実践学寄附講座の皆様のご企画運営と県庁医療政策課の職員の方々のサポート、その他にも夏季実習や講演会などでお世話になった皆様のご尽力あってこそだと思います。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。いつも暖かく気遣ってくださり、誠にありがとうございました。

最後になりますが、今後も益々精進を重ね、熊本の地域医療を支える立派な医師になるべく努力することを誓い、結びとさせていただきます。6年間ありがとうございました。

## ● 相星 景子

国家試験が終わり新生活の準備で片付いた部屋を眺めていると、6年という月日を熊本大学で過ごしたのだと急に自覚して、誇らしくも少し寂しい気持ちが湧きあがります。

私が地域医療ゼミの一員となったのは二年生からでした。途中からの参加、そして熊本県外出身者で物珍しい存在であったのにも関わらず踏み込んでみようと思えたのは、同級生の存在も勿論のことですが先生方やスタッフの方々の温かい歓迎があったからこそだと思います。試験や部活、バイトに明け暮れて低学年を過ごしているうちにコロナ禍になってしまい、ゼミのメインイベントだと聞いていた夏季合宿に参加することなく6年間を終えてしまいました。ゼミの中心となった5年生では同級生の助けを多く借りながら企画するのは私にとって大きな経験と、熊本の地域に対する愛着のようなものがより深まったように感じます。

そして何より私にとって一番有り難く感じていたのは、年度始めに毎年設けていただいていた先生方との面談でした。高校生までとは違ってなかなか先生方に一学生として見ていただけることが少ない大学生活を心細く感じていたのですが、面談の時に勉強や進路のことだけでなく普段の生活や私個人の意見までも聞いてくださる先生方に、不安や将来の展望などを表現できる場があったことが本当に有り難かったです。一学生に目を向けてくださるゼミの先生方やスタッフの方々、そして県庁の方々の温かい支援があったからこそ、途中からゼミに参加したことを後悔することは今まで一度もありませんでした。ご支援をしてくださった皆様や、6年間支えてくれた仲間達と過ごした熊本の地に感謝しています。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、スタッフの方々、そして県の医療政策課の皆様、これまで多大なるご支援を誠にありがとうございました。これからもお世話なることと思いますが、少しでも県の地域医療のお力になれるよう尽力するとともにゼミのより一層の発展をお祈りいたします。本当にありがとうございました。